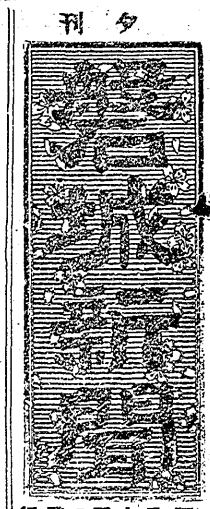
夕刊
五月十五日發行
（日曜祭日發行休刊）
東京發送・一〇六五五八八番



天氣豫報

小名浜測候所報告

今曉　北西の風晴
明日　南西の風晴

同窓だより（中）

大阪の一

青木　淳

私の出てゐる會に、山名龍澄君を訪ねて行つた。小さい時隣も同士になつたり、且ね中學では同級であつたので特に、なつかしい人である、お互びに白頭、禿頭になつた事を、笑ひあつたが氏はいまこの社は、大阪の中心の朝日ビルであるランチタイムになると十階のアラスカ二階のそばや、地階の食堂等に、この附近の會社員やら重役やら、外人達が押しよせて來る。二階のそば屋は、東京式のそばを賣つてゐるので、關東の方から來てゐるものが集まつて來る。自分も、關西の白つぽ汁のそばがきらひなのでいつもここに來て大ぶと關東の味をなつかしがつてゐる。このそば屋に、自分と碧中一回上の白石信雄さんの姿がよく見られるのである。自分も、いつか話してみようと考へてゐた。ある日頂度自分が入つてゐるところへ、白石さんが來られたので『白石さん』と、よびかけてみると、私の顔をしげしげ見てゐたが『君はだれでしたかね』といふ。自分の名前を名乘ると『さうでしたか、久しぶりでしたね、中學卒業して以來始めてですからもう二十七年にもなりますなあ』と、お互ひに感慨深かつた。氏は、山口高商を、出られて、三井物産に入り今大阪支店の樞要な位置を占められてる。

×

それから過日入學の事をき[illegible]に、大阪府立市岡高女校で押しも押されぬ[illegible]校で、私の兄の娘二人も、この山名先生に世話になり卒業したものである。

×

次、自分の會社の得意先である大日本製藥會社、小泉禮道さんがゐる。過日故中同窓會の席で自分の會社の電話交換手に、小泉さんといふ方はどこにゐるか、捜してくれといつたら『小泉さんならいつも會社に來られるし、工場等の監督のそばばかりもあるもう、その人らしい姿は見ないのだ。』といへば、知らぬ泉さん』といへば、知らぬものなしといふ有樣には吃驚した。向ふが、監督さんでもこちらは中學の先輩だ、といふて會社で威張つてやつたのは勿論であるが、それからよく、自分をたづねて來てくれる。

別離

大木生

○夕まけし驛のホームに別るゝと友が堅き手を握りも返しけり
○汽笛のひびき〻後〻送らゝ吾と送ゝ友とをへだつ夕闇
○教練の疲れいでたるひとゝきを見上〻空を雲流れけり
○靴音の夕べは寒　故郷の憤れにし路を吾はいそげも
○御社に朝を早〻詣づる人か乾きし空に祈しにけり

△桶公父子櫻井驛に訣別（延元元年）
△圍碁の名人本因坊一世歿す（元和九）△幕府林子平を禁錮す（寛政四）

滿洲肇國七周年記感

珠繋　小野務本

國交加厚國威振
禮節己成奎運新
皇帝仁慈乃能爾
笑他蔣宋虐生民

春の雨

杏所

京に寢て絹の蒲團や
春の雨

諸藝

恩讐無道

（100）

久我井多朗
香川三十代畫
呼ぶ渦枚（六）

門内をのぞいた目に映つたものは、たゞ美しく箭の無竹のそよぎばかりであるもう、その人らしい姿は見ないのだ。

『はて――？』と庄太郎は考へる確とその顔を見なのでないからハッキリ斷言する譯にはゆかないが、どうしても茅江だつた樣な氣がしてならない。あゝ、弱々しい後姿、背恰好。それから專之助に似た子供を抱いてゐた樣子……

（人違ひかなあ？）

いゝや！と、心のなかで強く否定するものがある。

庄太郎は、茅江らしい女の連のことを考へてみた。肥滿として、とても格幅がよかつた。服裝の惡くない紳士だつた誰だらう？もし、あれが茅江だつたら……？

急に、庄太郎は、くら〳〵と目まひに似たものを感じた。

（ばかな！）

庄太郎は、種島正臣のことを思ひ出したのだ。

だつたか、きだ惣介が乘合自車屋であつた日に龍かき人足と噴嚏してゐると聞いて大急ぎで駈け付けた時、自分にいやな眼を向けて、立去つて行つた馬上の紳士のことを思ひ出したのだ

あの折、彼はいつた。

『立派な御人体だが、どうも目付がよくねえなあ。あんなのは、油斷が出來ませんよ』

その、油斷の出來ない種島正臣ではなかつたか？

その想像が眞實だつたら……庄太郎の心は、たまらなく騷ぐ、ちか湧くのである。

ちッと、そこに立つてゐられないほどの焦躁だ。

『な、なんしこッた！』

自分かたつた一ッ、胸に秘めてゐる心の光明、その種島のやうな男と一緒に、こんな家へはいるとは……

（どうしやう？）

直にも、跳り込みたい心である

庄太郎は、立去〻兼ねて人だ怪しむほどいつまでもそこの門前に佇んでゐるのである。

――とは、知らないち江は川に面した座敷で、食卓をはさみで種島と、向ひ合つてゐるが、先年妻を亡くしたわしちや。だからわしの眼には、女氣といふものが

運こばれた酒肴を前にして、

『おち江さん。やらないか？さ遠慮することはないだらう』

と、種島は、盃をさしたが、それを受けられるち江ではない。彼女は悲壯にいふのである

『折角でございますけれど、無調法者でございますから……。お話とは、何でございませうか？』

『はゝはは』

種島は、ち江のつくつた悲壯な空氣を、明るい笑ひでほぐした。

『さう固くなつてゐては、話も出來んぢやないか。酒が飲めないなら、飯をやも給へ。わしは、一人でやるから……』

『……』

だが、箸も執らないで、

『……？』

『それ――？』

『それ――？』

『それ――

月曜論壇

交通調査の意義

平市内の交通調査は今十五日から向ふ三日間に亘つて行はれる。由來交通は人貨物及び意思を場所的に異動せしむることを意味し之が容易に行はれ、益々人の生活目的が完全に達成せらるるに至ることを稱して交通の發達と云ふ。而してその發達は一般社會狀態殊に經濟狀態の發達に伴ふものであつて十八世紀以前と十九世紀以後との間には經濟狀態の根本的相違に基いて交通狀態も亦著しい變化が認められるのである。即ちその動向から得た大數的觀念が直に當該都市の經濟的彈力を最も正確に測定する資料たらは云ふ迄も無く、一面交通量の多寡に因る道路橋梁等國家の營造物に對し極めて適正な管理經營の基準をなす意味に於て最も尊重すべき事業たるを失はない。而もその結果は執行後に於ける計數の整理を俟つ迄も無く、恐らく驚異的の奔躍を示す事殆ど確定の事實であらうが、當局は須くこの現前の趨向を察知活用し大に將來に備ふ處あつて、その該調査の眞使命が達成さるる所以であり、吾人は當局に於ける折角の企畫が單に計數の整理から一歩を出てぬ統計的遊戯に終るなきを庶幾して止まぬ

調査委員に至囑

目下開會中の市稅務署所轄内第三種所得調査會が頗る順調に推移し、大体明三日中に完了の模様であるのは時局柄寔に結構なことである。即ち當局が徒に細故の詠求を目標とせず能く限り各納稅義務者の由告を尊重した調査を基本とせる限り、其の間苛察に渉るが如き事のあり得なく、隨つて各調査員が之に失黄を加ふる餘地が極めて稀であつた事が全面的に惠を涉せしめた最大原因と觀るべく近く發せられる決定通知に對しては大体納得が行くものと觀測される。納稅義務者たるもの能く銃後意識の下に之を諒とし調査員の努力に信頼すべきである。

文化は漸次山奥へ

下小川、田人、入遠野の僻遠各村

電話事務開始決定

遞信省では昭和十二年度以降五ケ年間に全國各地における郵便局所全部に電信電話を施設して通信機關の普等を主眼として全面的にそ及徹底に努力して來たが本年度においても時局柄一層その必要を認め

一、重要通信連絡の萬全を期するため僻陬の地でも可及的に施設すること

一、重要物資生産上通信連絡改正の要ある地方には なるべく施設すること

一、招集關係事務處理等の圓滑を圖る爲出來る限り町村役場の電話加入を圖ること

一、幾山漁村における文化の向上と産業開發を促進するためは較的多額の施設費を要する局も之を施設普遍的普及に努めること

一、離島における防空通信連絡を島民の不便を救濟するため十八島ショの通信連絡を圖ること

遞信省は昨十四日午前十時から平國体事務所に開かれたが出席者百余名、戰時下木炭增産諸計畫について愼重審議、製炭者を督勵し國策に沿ふことゝし散會した

電信電話通話事務

田人

電話交換事務

下小川、入遠野、田人

煙草收納所は平と植田へ

目下植付のに大童

今年度から耕作することゝなつた濱三郡下の葉煙草は目下本國への植付けに大童となつてゐるがその收納所は平出張所管内は平、植田の二箇所に設置と決定

煙草は七月下旬までに收穫したものを九月一ぱいかゝつて乾燥し十一月に收納するもの

地方大小天狗の集ひ

昨日谷口樓で

佐藤三段古稀祝賀碁會

地方棋界の長老三段佐藤庄太郎元代議士の古稀祝賀碁會は既報の如く昨十四日午前九時から市内谷口樓に於て開催したが參會福島の本間三段、菅野二段、助川の三浦二段、本宮愛谷初段以下各方面の同好六十餘名參會初段審判の下に夫々盤面火を吐く接戰を演じ左記戰績を以て六時閉戰、主催者代表濱崎初段から當日の佐藤正賞に對しその人格と終始倦まざる勉強への精進振りとが諄々四十分餘に亘つて禮讃人々を感激せしめ、次いで佐藤三段の之亦誠意を披瀝した謝辭と安島元代議士の祝辭あつて宴に移る當日の戰績談などに花を咲かせ盛會裡に八時散會した

1 横山傳(内郷)―2 久森元兵衛(勿來)＝以上抽籤

＝3 西塚市兵衛(内郷)

4 鹿田實(小川)　5 飯島平司(平)　6 島辰次郎(平)　7 柳田政雄(小川)　8 本間第一郎(福島)　9 白須壽郎(郡山)　10 西原宗男(湯本)

木炭增産協議

本炭檢査平支所管内の增産協議會は昨十四日午前十時から平國体事務所に開かれたが出席者百余名、戰時下木炭增産の國策に沿ふことゝし散會した

少年惡のコンクール

隼小僧十五名平署へ

時には四人、五人が一と組となり見張りを立てた上で隼の如く盜み取つて逃げたもの、被害前後三十件その額百余圓

勇士の妻寄附

偉いぞよしさん

市内村木町〇〇兵佐原敏雄氏妻よしさん(三五)は夫出征後手内職で蓄へた金五圓をけと軍事後援會へ寄附、扶助を受けてる身にありながら、と係員もその赤誠の程にただ感激

「悪のコンクール」

去月十五日山神祭の夜彼等十五名は十六になる某を通じての旅行シーズンを圓長格に窃盜團を組織ある。之を平驛を中心としてしたものだがそのメンバーは十四、十三、十二の年少者ばかりで殆ど同村町田居住の坑夫の伜

最初は磐炭倉庫を合鍵で破り鑛類を窃取、ときを同じて銃類を窃取、ときを同村古物商に密賣して駄菓子サイダー、リンゴ、バナナ、キャラメル等を盜んでは村に引き上げ山林内で飲み食ひ一廣寺街にも出入りしてゐた

勇士遺族の負債整理

縣では今次事變によつて戰病死した勇士遺族の負債を臨時處理によつて特別整理を指導、産組縣報、平商業体育部後援會創立發會式は十三日舉行陣容整へた、現在會員百余名

（會長）小野榮一（副會長）佐々木俊男、小河原義雄（幹事）中根義男外九名（會計）永山小平、石川榮田卷重三（庶務）三井直吉（顧問）青沼市長外數名

其他を經由して奔走の融通をなすことになつたが地方のトップを切つて好間村熊谷彦信氏から右資金の融通申込みがあつた

平商体育後援會

陣容成る

初代會長は小野氏

流石は旅行季節

赤字にもなるまいと

平驛當局の觀測

平市の体操大會

愈よあす舉行

昨十四日行と管であつたが天候の關係で延期された平市の体操大會は明十六日午前九時から平商グラウンドに舉行と決定

長期建設に對する

確固不拔の覺悟必要

材木町出身　鈴木一雄少尉(通信)

益々御健勝なる御激勵のお言葉を寄せ候。

出征以來お蔭樣にて頗る元氣旺盛幸にも漢口攻略の第一線に參加するの好機に恵まれ德安攻略部隊に配屬を命ぜられ山又山の山嶽戰に終始し而も全く衆敵の包圍下に入り（略）惡戰苦鬪遂に朝一夕になるものにはあらず國際關係の複雜化は經濟

陣中を聽く

(395)

銃後の諸兄にて銃後の諸兄に御厚力の拜見仕り候。色々と我々第一線に在る者の身を御心勞下さい御厚情の段厚く〜御禮申上げ候。其れにつけても出征以來久しく御無音に對しいとものみ打ち過ぎ恐縮の至り第一線將士にも出征以來久しく御無音に奉存候。失禮の段何卒悪しからず御許容下され度く

御町重なる御慰問のお言葉に且つは若樣夫々の事わからず

子供を井戸へ

内郷の狂人亂暴

内郷村小島四倉製板工場雜役夫佐藤文四郎(四七)は十二日午後三時半頃飲酒の上同工場事務主任大谷慶藏氏(三五)方を訪ね勝手口で水を飲んでゐるうち突然發狂、御用聞きに來て勝手口をあけ市内南町豆腐屋木村十一郎(四〇)を柄杓で殴りつけ逃げる後から飛び出し附近に遊んでゐた大谷氏長男三郎(五)を抱き上げ傍の深さ四間余の井戸に殺げ込み更に棍棒をふるつて暴れ廻り取り鎭めんとした隣家の傘家鈴木忠治さん(四〇)の前額部をスコップで一撃昏倒せしめなほも荒れ狂ふを漸く取押へ平署に留置した。鈴木さんは全治四週間の重傷、三四雄ちゃんは幸ひ釣瓶につかまつてゐたので無事救ひ上げられた。同人は一年程前にも精神に異狀を呈し父親を殺すと鉈を振廻して暴れたことがありこんども數日前から氣が變なので工場を休み家人が監視中のものだつた

十六日

【小名浜側候所觀測】

午前七、二五　午後七、二五

廣瀬前

〇、二五　一、三五

金を貰りませう

『私藏は銃後の恥』と

集中運動開始

既報、銀行を總動員しての買上げ等國策による金集中運動を開始した縣では來月から毎月一日より一週間を『金集中强調週間』として特に宣傳行事を實施することゝなり これに先立つて坂井經濟部長が來る三十日平講演、大いに『金の死藏は銃後の恥』を强調する尚各學校は朝禮の際該運動の趣旨を語り又立看板、印書等によつて宣傳

市では近く宣傳街頭行進を行ふ方針である

錫泥判る

既報、十一日夜内郷村磐炭綴製作所から鑛業用錫八貫匁（百三十圓）を盜んだ犯人は同製作所職工佐々木一美(二二)、これを九十圓で同村綴齋藤留吉に、齋藤は更に百三十圓で市内南町菊地求に轉賣したこと判り平署で檢擧

の七十名、同上十三日の百五十名、これからの處では平商の關西行き百二十名と十八日出發めこれも同じ關西ゆきの磐中二百餘名等々大小各方面の團体旅行で列車の制限によつて減收が免れないと觀て居た鐵道當局ではきしたる赤字にもなるまいと幾分景氣を見直して居る樣である

入用

一、少年少女　工場員

小學卒業程度市内居住のもの、來談あれ

磐城新聞社

御訛り玉も　高島屋洋服店　平二電三八六

休み家人が監視中のものだつた

十六日

【小名浜側候所觀測】

午前七、二五　午後七、二五

廣瀬前

〇、二五　一、三五

新聞　火曜　癸巳　三月十七日

五月十六日　大安　成宿

判定隨時

東京市本郷區湯島四丁目

高島易斷總本部神誠館

▲一白　固ろうなるときは信用を損して榮に離るべし▲二黑　内にありて平和を主とするが尤も安全なり▲三碧　人の言を誤り聞きて意外の失敗することあり▲四綠　我が力を頼みとし人の助けを待つべからず▲五黃　身の程を守り大なる事に手出しすべからず▲六白　内はともあれ專心外に向つて活動すべき日▲七赤　平押しに押し通むべし氣緩みは第一の禁物▲八白　内治らざれば外に向つての鋭鋒もにぶるべし▲九紫　運氣一轉し此までの苦痛は一切免れ得べし

耳鼻咽喉科專門

レントゲン科

高柳醫院

醫學博士　高柳博明

平驛前　電三三六

國は二ッポン。魚は凍魚

日本水産特約

卸小賣　平製氷會社

電三三六・三三六

タイ　ヒ

エビ　甘

白魚　マナ鯉

冷カツノコ　帆立貝柱

ウニ貝燒

ヒラマル凍魚

平代理店　魚問屋

四丁目

電五二八番

配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

皮膚科　泌尿器科　性病科　專門

診療時間　午前八時ヨリ午後九時マデ

平市田町

江尻醫院

電話六九一

醫學博士　江尻伊三郎

入院隨意

おでん、やき鳥

小鳥燒も初めました。

お酒のあとに　おけさめし

おでん　茶めし　酒の家　味郷

本市三田小路(三丁目裏)

耳鼻咽喉科專門

平市南町一六番地

大和田醫院

(入院隨意　病室完備)

電一七〇番

重田眼科

平驛前通り　元貯蓄銀行跡

眼科一般　眼鏡檢定

醫師　重田景治

平市田町一番地

外科一般

内臓外科　肛門病科　皮膚科　專門

泌尿生殖器科(婦人科　性病科)

平市字鎌田町

白土醫院

電二七九

(入院隨意)